

〔論文〕

# 1・2歳児のさまざまな表現を保育者がどのように捉えているかについての研究

—ある園の保育者インタビューの分析から—

中 根 佳 江  
Yoshie Nakane

大阪総合保育大学  
児童保育学部 非常勤講師

瀧 川 光 治  
Koji Takigawa

大阪総合保育大学  
児童保育学部

本研究では、1・2歳児のさまざまな表現を、保育者がどのように捉えているかということ、1・2歳児担当の保育者に1人ずつ構造化インタビューを行い、インタビューを録画し、全て文字情報として逐語録を作成した。各質問の逐語録を、KH コーダーを用いて分析を行った。

その結果、保育者は1・2歳児の子どものさまざまな表現や身体的表現を引き出したり豊かにするために、普段から一人ひとりの子どもの表現を見て気づき、認めることや、子どもに対して丁寧に向き合うことが大切という意識を保育者が持つことが必要と捉えられた。そして、子どもの表現を否定せず共感し、子どもの表現を受け入れる姿勢が大切だと保育者が意識していることが明らかになった。

また、子どもが保育者のことをよく見て模倣していることもあるので、保育者自身が表現することを楽しみ、保育者がいきいきと表現しようと心がけていることも分かった。

その中で、保育者は子どもがイメージした自発的な表現を大切にし、子どもの自発的な表現を共有し、一緒に子どもの表現を保育者自身の表現の中に取り入れることも必要と捉えていた。

保育者が、子どものさまざまな表現を否定せず、受け止め、子どもの表現を肯定的に捉えることにより、子どもは安心して表現を行える環境が整い、子どもは自発的な表現をすることができるようになったと分かった。

キーワード：保育者・1・2歳児・表現の捉え方・身体的表現・保育者の表現

## I. はじめに

「感じたこと、考えたことを自分なりに表現を通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と幼稚園教育要領<sup>1)</sup>や保育所保育指針<sup>2)</sup>、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<sup>3)</sup>の領域「表現」には記載されている。著者が認定こども園でリトミックを指導している際、保育者と子どもの身体的表現を観察していると、保育者がどこまで子どもの表現に寄り添い、子どもの表現をどのように捉えているのであろうかと、常に感じていた。教育要領や保育指針、教育・保育要領では、「感じたこと、考えたことを自分なりに表現を」と定められていて、知識としては理解していても、日々の保育の中で子どもの表現をどのように受け入れているのであろうかと、心配する場面も見受けられていた。それは、保育者が均一化した動きしかしないことが多いことで、子どもの身体的表現も保育者と同じ表現しかしないことがあった。中根(2016)も保育者の身体的表現は子どもに影響を及ぼすと指摘し、特に低年齢児の子どもは、保育者の身体的表現を模倣するところから身体的表

現を始めるか」と述べている<sup>4)</sup>。そのように保育者の身体的表現は、低年齢児の子どもにとって重要であることから、著者もリトミック指導においては、子どもへの声かけは勿論、特に低年齢児の指導の時には、保育者への身体的表現についての幅広い表現ができるように促していた。

筆者は数園リトミック指導を行っているが、その中の認定こども園のA園は2、3、4、5歳児のみリトミック指導を行っている。そのA園の保育者で、数年3、4、5歳児と一緒にリトミック活動を行っていた保育者が、今年度1歳児担当になり、筆者指導の子どもと一緒にリトミックの機会が無くなった。その保育者が、「1歳児がとっても楽しい保育者が想像できないような動きをいつも行う」という発言があり、中根(2016)が「低年齢児の表現は、保育者の模倣から始まる」と述べているが<sup>5)</sup>、保育者の捉え方一つで、低年齢児の身体的表現の動きも変わってくるのではないかとということが考えられ、今回の研究のテーマに発展した。

今までは、保育者の表現力を高めることが、子どもの表現力にどのように反映されるかという視点の研究がさ

れていたが、本研究では、1・2歳児の子どものさまざまな表現を、保育者がどのように捉えているかという視点を保育者のインタビューを分析することによって、今後の子どもの表現力をどのように保育者が捉えていくと良いか検討したい。

## II. 方法

### 1. 分析の対象

大阪府内の認定こども園A園（以下A園とする）

1歳児・2歳児クラス担当の保育者 11名

### 2. 調査時期

2021年9月27日～10月6日 1人20分程度

### 3. 調査方法

・オンライン（ZOOM）にて、1人ずつ構造化インタビューを行う。

画面に質問事項を画面共有し、質問事項を確認しながらインタビューを行う。

・インタビューを録画し、全て文字情報として逐語録を作成した。

・各質問の逐語録をKHコーダー<sup>注1)</sup>を用いて分析を行う。

### 4. 倫理的配慮

本研究を行うに当たり、A園に口頭にて確認し、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることは無いことを説明し、回答をもって同意したこととした。

### 5. インタビュー内容

質問1 リトミックは何のために行っているか、自分の考えで教えてください。

質問2 今の子どもの表現で面白いと感じていることがありますか。

質問3 子どもの表現や身体的表現を引き出したり、豊かにするために何か意識して保育の中に取り入れていることがありますか。

質問4 子どもの表現や身体的表現を引き出したり、豊かにするために何がたいせつだとおもいますか。（考えや意識、心がけていること）

質問5 子どもが表現している様子を見て、保育者のやっている表現を模倣していると感じることはありますか。

質問6 子どもの自発的な表現をどう思いますか。

質問7 子どもの前で、自分が身体的な表現をするときに、心がけていることはありますか。

なお、質問5、6に関しては、5段階評価で聞いたあと、その理由を聞いた。

5：たくさん行う 4：少し、時々行う

3：どちらとも言えない 2：あまりない

1：ほぼ無い

## III. 結果と考察

### 1. 質問1「リトミックは何のために行っているか。」について

質問1では、リトミックを行う目的を聞いたが、音を聞いて表現するという動きだけで答えた保育者もいたが、動きのことを話しながら、リトミックの経験によって子どもが身につく力を答えた保育者もいた。身につく力まで答えた保育者は、子どもの表現する場面だけでなく、その後の子どもの成長にも気づくことができたことで、話すことができたと考える。また、この質問は最初の質問であるので、保育者も緊張しており、普段は色々なことを感じていても、十分に答えられなかったかもしれない。

そこで、質問1についての11人の保育者のテキストデータから、総抽出語数977、異なり語数197が得られた。表1は抽出リストコマンドで得られた結果から、出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめたものである。「音」「思う」「リトミック」「表現」「聞く」などの他に、「楽しい」「子ども」「感じ」「合わせる」「動く」というリトミックの中での身体的表現の語が抽出された。

表1 質問1の抽出語

出現回数	抽出語
25	音
18	思う
15	リトミック・表現・聞く
9	楽しい・子ども
8	感じ・合わせる・動く
7	体
6	感じる・動かす
4	イメージ・音楽・歳・集中・動き
3	一緒・思考・注意

図1は、出現回数3以上、共起関係（線）の描画数60の設定で描き出されたネットワーク図である。これにより3つのカテゴリー「音と聞くとリトミック」「子どもとイメージと動き」「感じると集中」が現れた。これらのカテゴリーごとに、KWICコンコーダンスのコマンドを用いて、対象の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。そして、カテゴリー内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴ

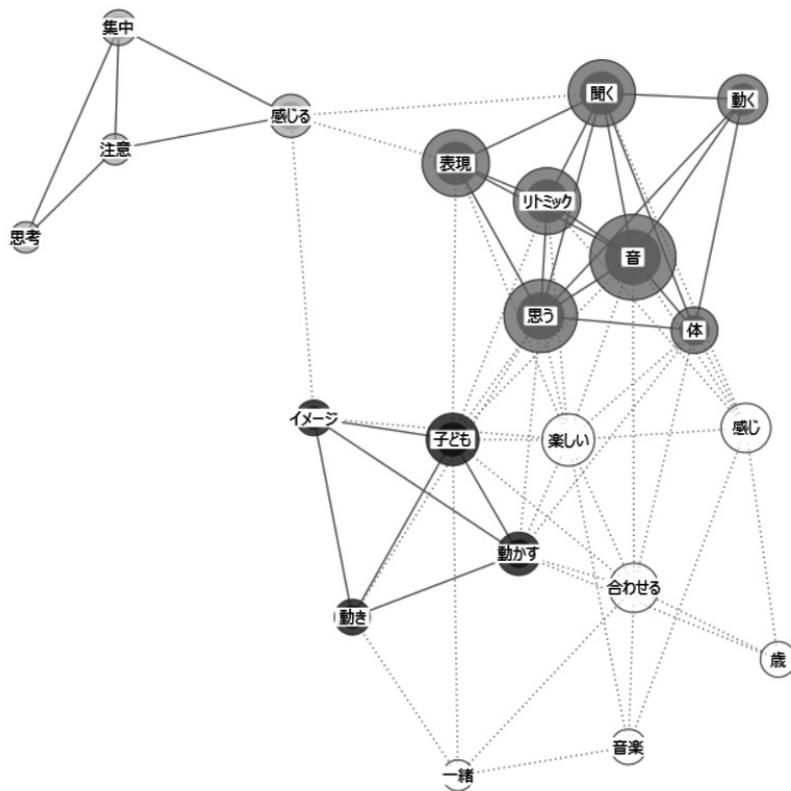


図1 質問1の共起ネットワーク

リー抽出されたごとの関係や傾向を探ることで、そのカテゴリーで述べられていたことを数点まとめた。

(1) リトミック

「音」を中心に「聞く」「表現」で構成された。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、①音を聞く、②音に合わせる、③音を聞いて表現する、について述べられていた。

① 音を聞く

「音を聞いて、動く」「音を聞いて、自然と体が動く」「音を聞いて、自由な動きを体で表現」など音を聞いて、反応をする子どもが多いとの発言が多い。リトミックは聞くことが始まりで、聞いた音によって体で表現することが、リトミックであると保育者は考えていることが多いことが分かった。また、音を聞くことが大切と思うことから、「音を聞く」ことを子どもに促すということも保育者はリトミックの中で必要なことという記述もあった。

② 音に合わせる

①では音を聞くということではあったが、「音に合わせて」「音に合わせて体を動かす」「音に合わせて動くことが楽しい」という発言がある。リトミックは聞いて体を動かすだけでなく、音を聞いて合わせて、体を動かす。という認識があった。

③ 音を聞いて表現する

「音を聞いて体を動かして表現する」「音を聞いて、音に合わせてイメージしたことを表現する」という発言があった。①、②は音を聞く、音に合わせて動く、リズムを取るところから、イメージを体で表現をするということもリトミックであるという認識が分かった。

(2) 子どもの様子

「子ども」を中心に「イメージ」「動かす」「動き」など動くことに関する語で構成された。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、①イメージ、②子どもが動く、について述べられていた。

① イメージ

「イメージしたことを表現する」「イメージをもって動く」という発言があった。これはリトミックのカテゴリーの中でも(1)③同様に、子どもの様子の中でも、イメージをしたことを表現していると保育者も考えていることが分かる。

② 子どもが動く

「体を動かす」「手足を動かす」「音に合わせて体を動かす」という発言があった。リトミックは子どもが体を動かすことと、保育者が認識していることが分かった。

(3) 集中

「集中」を中心に「注意」「思考」などリトミックで

養われると思われる力に関する語で構成されていた。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、①集中力、②注意力について述べられていた。

### ① 集中力

「集中力がつく」「集中してリトミックに取り組む」「集中力が養われている」と言われた。リトミックを経験して、子どもの成長を感じた保育者の意見だと考える。

### ② 注意力

「注意力、集中力がつく」「思考力、注意力がつく」「自分の周りに注意して活動する」という保育者の発言があった。集中力と同様に、リトミックを経験して、子どもの成長を感じた保育者の意見だと考える。

## 2. 質問2「今の子どもの表現で面白いと感じていることがありますか。」について

質問2からは、普段の子どもの様子になるので、子どもの動きから答えてもらったが、いろいろな視点で子どもを毎日見ながら保育しているので、たくさんの意見が出てきた。1歳児2歳児になるので、インタビュー時点で、年齢的に1歳から3歳になっている子どもの様子になるので、多少差はあるが、クラス全体を通して、保育者たちは発言していた。さまざまな保育の活動から見えてくることはあるが、全体的に言えることは、保育者として子どもの姿を面白い、可愛いと心から思っていることがよく伝わってきた。子どもの表現を受け止めようとする気持ちを熱く語ってくれていたようであった。一人ひとりの子どもの表現を受け止め、認めていることが、ほぼ全員の保育者の発言に含まれていた。

表2 質問2の抽出語

出現回数	抽出語
37	思う
37	子ども
30	表現
25	面白い
19	保育
14	音
12	みる
11	言う・言葉・聞く
9	感じ・自分・出る・遊ぶ
8	今・姿・動く・遊び
7	感じる
6	真似・体・動き・鳴らす
5	イメージ・絵本・楽しい・楽しむ・月・最初・身体・逃げる・動物

そこで、質問2についての11人の保育者のテキストデータから、総抽出語数3202、異なり語数492が得られた。表2は抽出リストコマンドで得られた結果から、出現回数5以上の抽出語と各出現回数をまとめた物である。「思う」「子ども」「表現」などの他に、「面白い」「保育」「音」という語句が抽出された。

図2は、出現回数5以上、共起関係(線)の描画数60の設定で書き出されたネットワーク図である。これにより5つのカテゴリー「子どもと表現」「見ると感じる」「真似」「最初と遊ぶ」「動くと鳴らす」が現れた。これらのカテゴリーごとに、KWIC コンコーダンスのコマンドを用いて、対象の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。そして、カテゴリー内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴリー抽出された語との関係や傾向を探ることで、そのカテゴリーで述べられていたことを数点まとめた。

### (1) 子どもの表現

「子ども」を中心に「表現」「保育」「面白い」などで構成された。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、①体で表現、②表現が面白い、③子どものイメージ、について述べられていた。

#### ① 体で表現

「体で表現している」「絵本の言葉に合わせて、手で表現する」「保育者にはないイメージで体で表現する」「とても面白い表現」という発言があった。保育者には固定観念のイメージがあるが、子どもは想像もつかない動きで、表現をすると保育者は感じ、また子どものイメージで表現を見て、面白いと捉えている。

#### ② 表現が面白い

「子どもが体で表現している様子がすごく面白い」「大人が思わない見立て方をしたりすることがあるのが面白い」「体全身でアピールしている姿を保育者に見せる子どもが面白い」などの発言があった。子どもの表現を保育者は受け入れ、子どもなりの表現を面白いと、心から感じているようであった。

#### ③ 子どものイメージ

①、②同様子どものイメージは保育者には思いつかない表現を促す物であると感じており、子どものイメージを面白く感じて、子どものイメージの表現を受け入れようという姿勢であった。

### (2) 表現を見て感じる

「見る」を中心に「動き」「感じる」「楽しむ」などで構成された。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、①子どもの動きを見る、②子どもの動きを感じる、③子どもが楽しむ、について述べられていた。

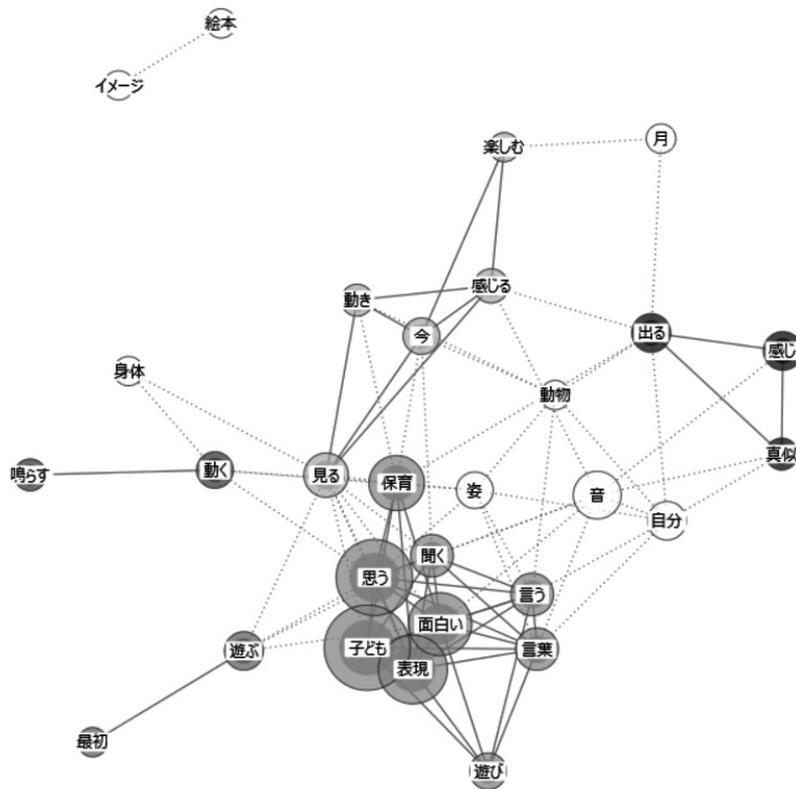


図2 質問2の共起ネットワーク

① 子どもの動きを見る

「子どものそれぞれの動きを見る」「子どもの成長が見られる」「音に反応する姿を見る」という発言があった。保育者が保育中に子どもの動きを見て、子どもの成長や今の動きを認めていると感じた。

② 子どもの動きを感じる

「ここに違う感じ方がある」「子どもの表現が面白いと感じる」「個々によって感じ方が違うのが面白い」という発言があり、保育者が子どもの動きを肯定的に捉えていることが分かる。

③ 子どもが楽しむ

「子どもが表現することを楽しむ姿がある」「楽しんで表現する姿」「保育者と違い、自分のイメージの中で楽しむ」という発言の中から、子どもは自分のイメージの中で表現を楽しんでいることが考えられる。

(3) 真似

「真似」「感じ」「出る」の3語で構成されていた。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリーでは「真似」をする「感じ」が、子どもの表現が「出る」ようになったと述べられており、保育者の真似を行って表現している感じが、今では自分のイメージの中から表現が出てくる感じに捉えていることが分かる。

(4) 遊ぶ

「遊ぶ」と「最初」で構成されていた。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリーは「最初」は一人ひとりの「遊び」だったが、この頃は友達との「遊び」に変わってきた。そして、子どもなりのイメージで見立てて「遊ぶ」ことができるようになってきたと述べている。これは、子どもの成長により、一人遊びから、友達と一緒に遊ぶことができるようになり、また個々のイメージを見立てて遊ぶことができるようになってきたと保育者が捉えていると感じる。

(5) 楽器を鳴らす

「鳴らす」と「動く」で構成されていた。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリーは「楽器」を「鳴らす」ことが楽しそうに感じることに、音をよく聴いて、音に合わせて鳴らすことができるようになってきたと発言している。

先生の演奏する楽器に合わせて、子どもは先生の演奏に合わせて、気持ちよく叩けたり、先生の演奏に合わせて音を鳴らすことを、よく行うと保育者が感じている。

3. 質問3「子どもの表現や身体的表現を引き出したり、豊かにするために何か意識して保育の中に取り入れていることがありますか。」について

質問3は、子どものさまざまな表現や身体的表現をど

のように引き出したり、豊かにするために、何か意識して保育の中で取り組んでいることの質問になったが、意識して取り組んでいることと言われると、答えることが難しく、悩む保育者が多かった。これは保育において、表現を受け止めてはいるが、表現を引き出したり、豊かにすることを意識的に取り組んでいることが明確でないのかもしれない。若しくは取り組んでいるが、その取り組みを保育者が子どもの表現を伸ばそう豊かにしようというねらいの認識が薄いのかもと考える。ただ、低年齢の子どものため、イメージをする前の段階で、いろいろなものを見る、知るという年齢のため、そのようなイメージがしやすくなる為の導入には取り組んでいることは発言していた。それがインタビューで保育者がすぐ答えることができるかできないかでは、表現に関する保育のねらいの認識が少し薄いのかもと考える。または、自然に表現を引き出すようなことを普段の保育で取り組んでいるので、特別感がなく、発言できなかったのかもと考える保育者もいた。

そこで、質問3についての11人の保育者のテキストデータから、総抽出語数1187、異なり語数273が得られた。表3は抽出リストコマンドで得られた結果から、出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめたものである。「子ども」「表現」などの他に、「イメージ」「保育」「言葉」「思う」という語句が抽出された。

表3 質問3の抽出語

出現回数	抽出語
27	子ども
24	表現
10	イメージ・保育
8	言葉・思う
6	絵本
5	意識・自分・取り入れる
4	気持ち・見せる・時間・多い・読む
3	雨・擬音・言う・自身・準備・身体・動き・動く

図3は、出現回数3以上、共起関係（線）の描画数60の設定で描き出されたネットワーク図である。これにより4つのカテゴリー；「子どもと表現」「イメージ」「絵本と擬音」「準備」が現れた。これらのカテゴリーごとに、KWICコンコーダンスのコマンドを用いて、対象の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。そして、カテゴリー内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴリー抽出された語との関係や傾向を探ることで、そのカテゴリーで述べられていたことを数点まとめた。

### (1) 子どもの表現

「子ども」を中心に「表現」「保育」「言葉」などで構成された。KWICコンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、①子どものイメージ、②保育者の表現、③言葉で表現、について述べられていた。

#### ① 子どものイメージ

「子どもがイメージしやすいように」「子どものイメージで」「子どものイメージで自由に表現」などの発言があった。まずは、子どもがイメージしやすいように保育者が保育の中で工夫をしていることや、子どものイメージで自由に表現することを、保育者が否定せず、受け入れる姿勢があることが捉えられる。

#### ② 保育者の表現

「保育者の表現を真似して表現をする子どもがいるので、保育者もできるだけ体で表現しよう」「保育者が先に表現したら、子どものイメージではなく保育者の表現を真似するので」という正反対の意見があった。これは子どものタイプによっても違うことも保育者の発言の中からも読み取れる。まだ、自分で表現をあまりしない子どもは、保育者の表現を真似していることから、保育者もしっかり表現することを大切に思うことと、イメージが出来てきた子どもで、表現をしようとしていても、先に保育者が表現をすると、自分の表現をしなくなるので、できるだけ表現を先にしないようにした方が良いという考えの表れである。

#### ③ 言葉で表現

「子どもの表現を見て、気持ちを言葉で表現をしたり」「子どもの気持ちを子どもの言葉で引き出せるように意識して」「子どもが知らない言葉は、保育者が意識して伝える」と1・2歳児担当の保育者なので、体の表現を言語化して気持ちを共有したり、子どもの言葉を大切にすることや、語彙力の少ない1・2歳児に対して、保育者が意識的に言葉がけをしていくことを大切にしようとする保育者の意識が示された。

### (2) イメージ

「イメージ」中心に、「動き」「動く」「取り入れる」の3語で構成されていた。KWICコンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリーでは「イメージ」をして「動く」、「イメージ」した「動き」を表現することを大切に保育者は思っているため、「子どもの表現」のカテゴリーの中の「子どものイメージ」と同様に、子どもがイメージできるような物を「取り入れ」たり、保育の中でリトミックを「取り入れ」たりしていると述べていた。

### (3) 絵本

「絵本」を中心に、「読む」「擬音」「身体」3語で構

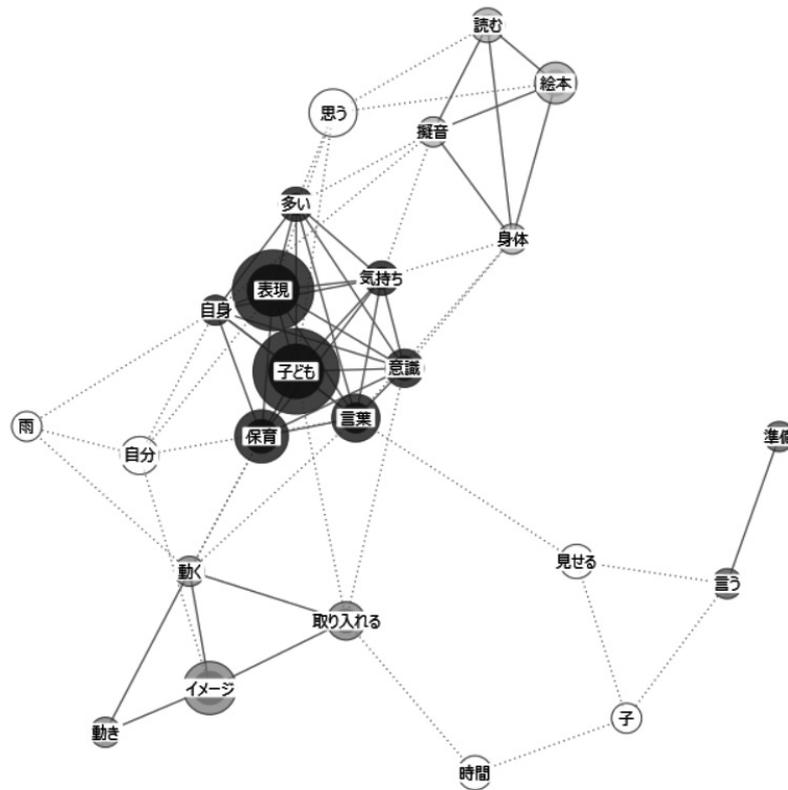


図3 質問3の共起ネットワーク

成されていた。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリーでは「擬音語が多い絵本を好む」「擬音語が多い絵本を選ぶ」「絵本を読む時は擬音語に合わせて身体で表現」、「イメージができるように絵本を読む」と、子どもが分かりやすい擬音語の多い絵本で、擬音語の感覚を楽しんだり、擬音語に合わせて体で表現を楽しむことが多いと発言している。またさまざまな物のイメージをする導入として絵本を読み聞かせて、子どもに視覚と聴覚からイメージしやすいように絵本を使っている保育者が多いと分かった。

(4) 準備

「準備」と「言う」で構成されていた。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリーでは、「イメージをしやすいような準備物が必要」であると述べていることと、「子どもが動けるように声かけをしている」というような促すことが必要ということもうかがえた。

4. 質問4「子どもの表現や身体的表現を引き出したり、豊かにするために何がたいせつだとおもいますか。(考えや意識、心がけていること)」について

質問4は、子どもの幅広い捉え方の表現や身体的表現をどのように引き出したり、豊かにするようにしている

か、心がけていることという質問になったが、質問3では答えることが難しかったり、悩んだ保育者が多かったが、質問4では心がけていることは、自然に言葉にすることが出来た。具体的に何を行っているかと聞かれると悩むが、保育者自身が毎日の保育において、心がけていることは簡単に答えることが出来た。子どもの表現を引き出すことや、豊かにすることは大切ということが分かっており、そのためには、自分の中で心がけようとしていることがよく分かった。

そこで、質問4についての11人の保育者のテキストデータから、総抽出語数1459、異なり語数288が得られた。表4は抽出リストコマンドで得られた結果から、

表4 質問4の抽出語

出現回数	抽出語
31	子ども
25	思う・表現
11	大切
8	見る
6	イメージ・一緒・感じる・言う
5	いろいろ・楽しむ・感じ・大事
4	ダメ・今・受け止める・多い
3	言葉・止める・大きい・動き・動く・否定・風・分かる・保育・本当に・遊び

出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめたものである。「子ども」「思う」「表現」などの他に、「大切」「見る」「イメージ」「一緒」「感じる」「言う」という語句が抽出された。

図4は、出現回数3以上、共起関係（線）の描画数60の設定で描き出されたネットワーク図である。これにより6つのカテゴリー：「子どもと表現」「受け止める」「感じる」「楽しむ」「一緒」「言う」が現れた。

これらのカテゴリーごとに、KWIC コンコーダンスのコマンドを用いて、対象の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。そして、カテゴリー内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴリー抽出された語との関係や傾向を探ることで、そのカテゴリーで述べられていたことを数点まとめた。

(1) 子どもの表現

「子ども」を中心に「表現」「大切」「思う」などで構成された。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、①子どもの表現、②大切、③いろいろなことを見る、について述べられていた。

① 子どもの表現

「自由に表現」する、「お友達の表現や色々な表現」、「子どもがどんなことを表現したいか」、など子どもの表現は一人ひとり表現が違い、自由に表現をする、子ども

が表現したいことを受け止めてあげることが大切と保育者が考えていることが分かった。

② 大切

「色々な表現を大切にしようと思う」、「一人一人の感性を大切に」、「一緒に共感することが大切」、「否定しないことが大切」という発言があり、自由に表現することを受け入れ、子どもの表現を共感し、個々の表現を否定しないということを、大切に考えていることが分かる。

③ いろいろなことを見る

「保育者は子どもの表現する姿を見」て、子どもの表現に感心する、「子どもの一人一人の感性を大切に」、「笑顔が見られて、子どもが楽しい」と思えるようにすることが大切である、そのためには、子どもに様々な体験をさせてあげて、いろいろなものに触れたり、見ることができるようになっている」という心掛けが保育者は大切と考えていることが分かった。

(2) 受け止める

「受け止める」を中心に「否定」「大事」などで構成された。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリーでは「子どもがその時に感じたこととか、表現したことは否定しないで受け止めてあげることが一番大事」と述べている。

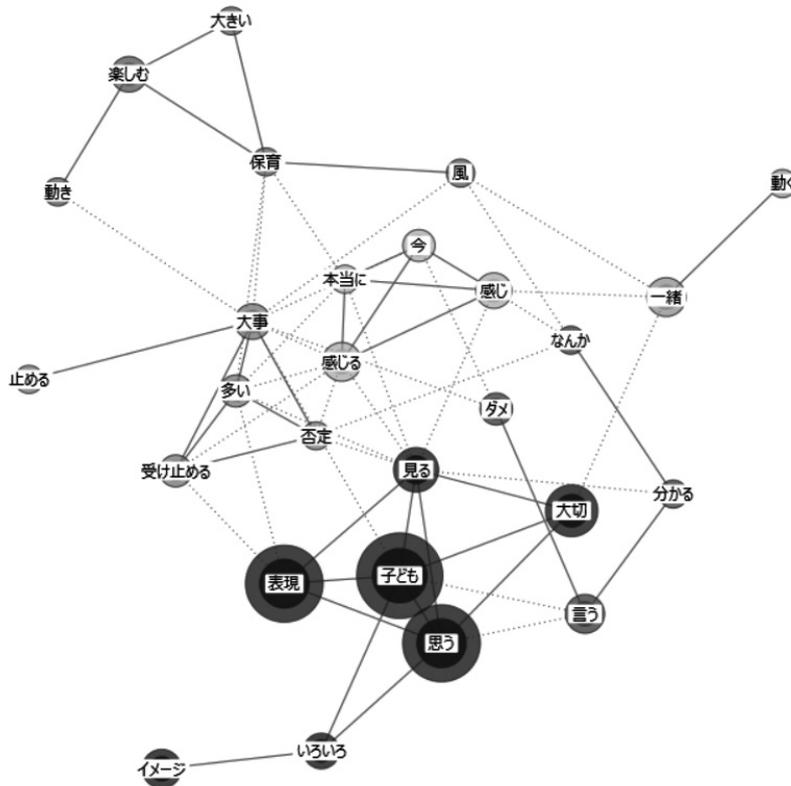


図4 質問4の共起ネットワーク

### (3) 感じる

「本当にやっていいのかな？みたいな感じで」、「大人や周りの様子を見て、合わせるような子どもが増えてきたように感じる」、「躊躇なく表現できる環境を作ることが必要と感じる」、など子どもが、自由に表現できる環境を整えることが保育者として必要と感じていると述べられていた。

### (4) 保育者が楽しむ

「楽しむ」を中心に「動き」「大きい」などで構成された。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリでは「保育者がすごく楽しんでやるようにする」、「子どもと一緒に喜ぶとか楽しむようにする」という保育者自身が楽しむことが大切と述べている。あと、子どもの表現は面白い、感心する気持ちが大きいということも述べている。

### (5) 一緒

「子ども」と「一緒」で構成されていた。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリでは、「子どもと一緒に喜ぶとか楽しむようにしている」や「一緒に共感することが大切」と述べている。

### (6) 言う

「言う」を中心に「分かる」、「ダメ」などで構成された。KWIC コンコーダンスを用いた確認により、このカテゴリでは「やっていいよって言われていないけど、いいのかなと思う子どもが増えているように感じる」と発言した保育者もいたが、「子どもがやりたいことを、ダメって言わない」、「自由に表現していいのだとわかるように教えることが大切」、「みんなと一緒にじゃなくっていいということが分かるように」と保育していきたいと述べられていた。

## 5. 質問5「子どもが表現している様子を見て、保育者のやっている表現を模倣していると感じることはありますか。」について

質問5では、子どもが保育者の表現を模倣しているかどうか尋ねた。ここでは、保育者の感じ方で意見が分かれた。保育者の表現をよく模倣していると答えた保育者が多かった。実際、今まで中根（2016）の研究でも、2歳までは保育者の表現を模倣する。ということが述べられている<sup>6)</sup>。しかし、数人の保育者は、あまり模倣していないと今回の調査では答えた。これはどのように子どもの表現を捉えて、子どもの表現を認めて受け入れているかにかかわってくるように感じた。

そこで、質問5についての11人の保育者のテキストデータから、総抽出語数1418、異なり語数267が得られた。表5は抽出リストコマンドで得られた結果から、

表5 質問5の抽出語

出現回数	抽出語
31	表現・保育
24	模倣
23	子ども
19	思う
14	感じる
10	見る
8	感じ・自分
6	動き
5	言う・真似・遊ぶ
4	今・姿・時々・友達
3	イメージ・クラス・結構・持つ・自由・聞く・遊ぶ

出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめたものである。「表現」「保育」などの他に、「模倣」「子ども」「思う」「感じる」という語句が抽出された。

図5は、出現回数3以上、共起関係（線）の描画数60の設定で描き出されたネットワーク図である。これにより3つのカテゴリ：「表現と模倣」「見ると動き」「遊ぶ」が現れた。これらのカテゴリごとに、KWIC コンコーダンスのコマンドを用いて、対象の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。そして、カテゴリ内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴリ抽出された語との関係や傾向を探ることで、そのカテゴリで述べられていたことを数点まとめた。

### (1) 保育者の表現を模倣

「表現」を中心に「保育」「模倣」「思う」などで構成された。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリの内容を探ったところ、①保育者の表現を模倣、②子どもの表現、について述べられていた。

#### ① 保育者の表現を模倣

「表現の苦手な子どもは、保育者の表現を模倣する」「自分のイメージを持っている子どもは保育者の表現をあまり模倣しない」との発言が見られる。表現を積極的にする子どもと、表現が苦手な子どもによって子どもの模倣の仕方が違うことを、保育者自身が感じているとわかる。

#### ② 子どもの表現

「子どもは日々自発的な表現をすることが多いので」保育者は先に表現をせず、子どもの表現を認めていくことが必要ということも発言している。4.（2）でも同じことを述べている。

### (2) 子どもの動き

「動き」と「見る」がメインで構成されている。

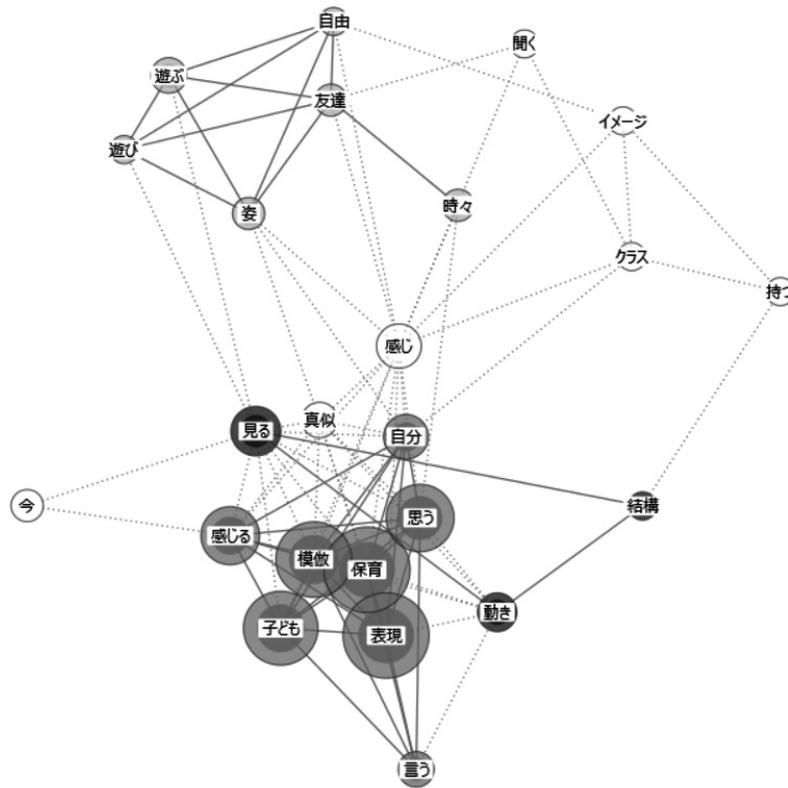


図5 質問5の共起ネットワーク

KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、「保育者や大人のしていることをよく見ている」という発言もあるが、自分たちがこれになりたいと言ったときの動きは、何となく違ったりするので、保育者は子どもの表現を見て気づいていくことが必要と感じているようである。

データから、総抽出語数 1347、異なり語数 277 が得られた。表6は抽出リストコマンドで得られた結果から、出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめたものである。「表現」「保育」などの他に、「模倣」「子ども」「思う」「感じる」という語句が抽出された。

**6. 質問6「子どもの自発的な表現をどう思いますか。」について**

質問5で、あまり模倣していないと答えた保育者は、質問6の子どもの自発的な表現をしているかという質問に、いつもたくさん表現していると答えている。保育者の表現を模倣するのではなく、自分のイメージで、自由に表現する姿を捉えている。質問5では、保育者の模倣をたくさん、時々・少しすると答えた保育者が多かったが、同じ保育者が、質問6でも、子どもの自発的な表現は多いと答えるということが多かったのも、特記すべきことだと思う。子どもの月齢差、個人差も関係するとは思いますが、自発的な表現をしているかどうか、子どもを見て気づけるかどうかにつながるので、保育者の視点1つで変わってくると思う。また、8割の保育者は、自発的な表現には、個人差がかなりあると発言していた。

そこで、質問6についての11人の保育者のテキスト

表6 質問6の抽出語

出現回数	抽出語
40	表現
33	子ども
31	思う
19	自発
11	見る
9	保育
8	たくさん
7	自分
6	日々
5	動かす
4	姿・遊び・遊ぶ
3	歌・感じる・今・作る・場面・色々・赤ちゃん・多い・部分

図6は、出現回数3以上、共起関係（線）の描画数60の設定で描き出されたネットワーク図である。これ

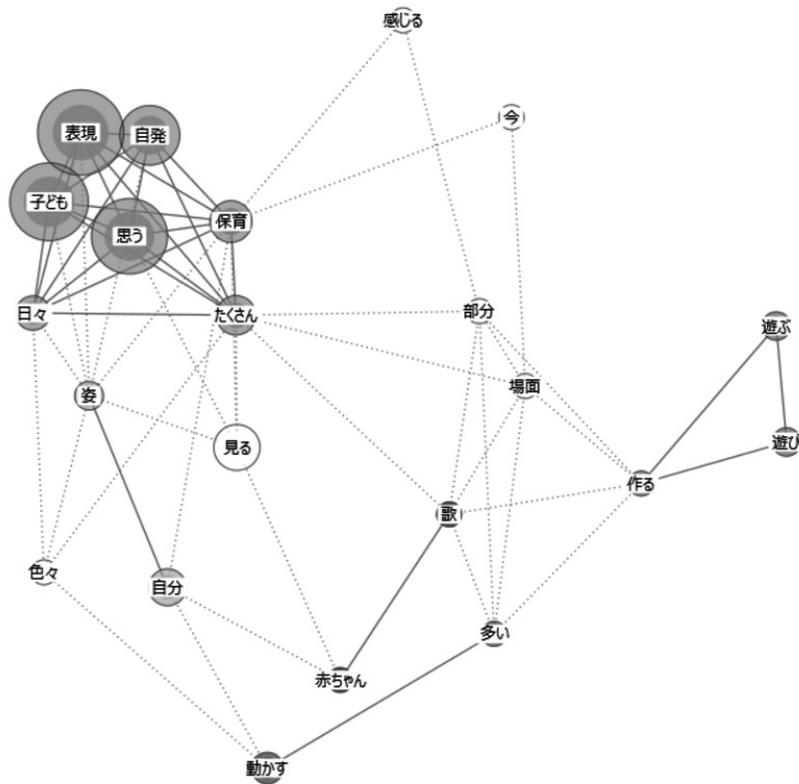


図6 質問6の共起ネットワーク

により5つのカテゴリー；「表現と子ども」「自分と姿」「動かす」「遊びと作る」「歌」が現れた。これらのカテゴリーごとに、KWIC コンコーダンスのコマンドを用いて、対象の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。そして、カテゴリー内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴリー抽出された語との関係や傾向を探ることで、そのカテゴリーで述べられていたことを数点まとめた。

(1) 子どもの表現

「表現」を中心に「子ども」「思う」「自発」などで構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、「子どもの表現」について日々自発的な表現を多く表現する子どもと、あまり自発的に表現を行わない子どもがいることが明確にされた。

(2) 子どもの姿

「自分」と「姿」で構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、子どもは「自分から」飛んだり、動物になったりしている。「自発的に自分の意志で表現できる子どもも多い」、ということを発言する保育者も多いが、自発的に表現する子どももいると発言した保育者の中に、保育者や友達の「姿」をよく見て真似をする子もいる。とも述べてい

る。

(3) 自ら動かす

「動かす」と「多い」で構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、子どもは「自ら指を動かし、カニさんと言って表現する」「イメージができるようになってきて、体を大きく動かしたりする、小さく動かしたりする」と具体的に発言し、「一人ひとり自由に表現する場面が多い」「自発的に自分の意志で表現できている子どもが多い」と保育者が述べている。

(4) 遊びを作る

「遊び」「遊ぶ」「作る」と3語で構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、子どもが、自分でこれを作ってみようとか、自分でいろいろ見ためながら遊んでいる様子が見受けられると述べている。

(5) 歌

「歌」と「赤ちゃん」で構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、自発的に「歌」っていたり、「赤ちゃん」のお人形を抱きながら、「歌」を歌っている。保育者の模倣とか、0歳児の保育の様子を見ているので、赤ちゃんのお人形を抱きながらお世話をしている様子が見受けられると述べて

いる。

**7. 質問7「子どもの前で、自分が身体的な表現をするときに、心がけていることはありますか。」について**

質問7では、保育者として、子どもと一緒に活動する時の、自分の身体的表現についてどのように捉えているか、どのようにしようとしているか、心がけを質問した。オーバーアクションなど保育者のお手本とならなければと思う保育者と、反対に保育者が先に動いてしまうと、子どもが真似をするだけになるという気持ちがある保育者もいた。

そこで、質問7についての11人の保育者のテキストデータから、総抽出語数1020、異なり語数231が得られた。表7は抽出リストコマンドで得られた結果から、出現回数3以上の抽出語と各出現回数をまとめたものである。「表現」「保育」などの他に、「模倣」「子ども」「思う」「感じる」という語句が抽出された。

図7は、出現回数3以上、共起関係（線）の描画数60の設定で描き出されたネットワーク図である。これにより5つのカテゴリー：①子どもと表現と楽しい、②動きと大きい、③真似と大切、④動くと見る、⑤オーバーと心がける、が現れた。これらのカテゴリーごとに、KWIC コンコーダンスのコマンドを用いて、対象

表7 質問7の抽出語

出現回数	抽出語
25	子ども
18	表現
12	楽しい
11	思う・保育
9	動き
6	一緒
5	見る・自分・動く
4	楽しむ・今・自身・心がける・真似・大切
3	オーバー・音・感じ・笑顔・先・前・大きい・表情

の抽出語を含むテキストデータの一覧を得た。そして、カテゴリー内の他の抽出語とどのような文脈で使用されているか、あるいは他のカテゴリー抽出された語との関係や傾向を探ることで、そのカテゴリーで述べられていたことを数点まとめた。

**(1) 保育者の表現**

「子ども」を中心に「表現」「楽しい」などで構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、保育者は「子どもが分かりやすい動き」「子どもはよく見ているので、楽しく、オーバーに表現することを心掛けている」などの発言があっ

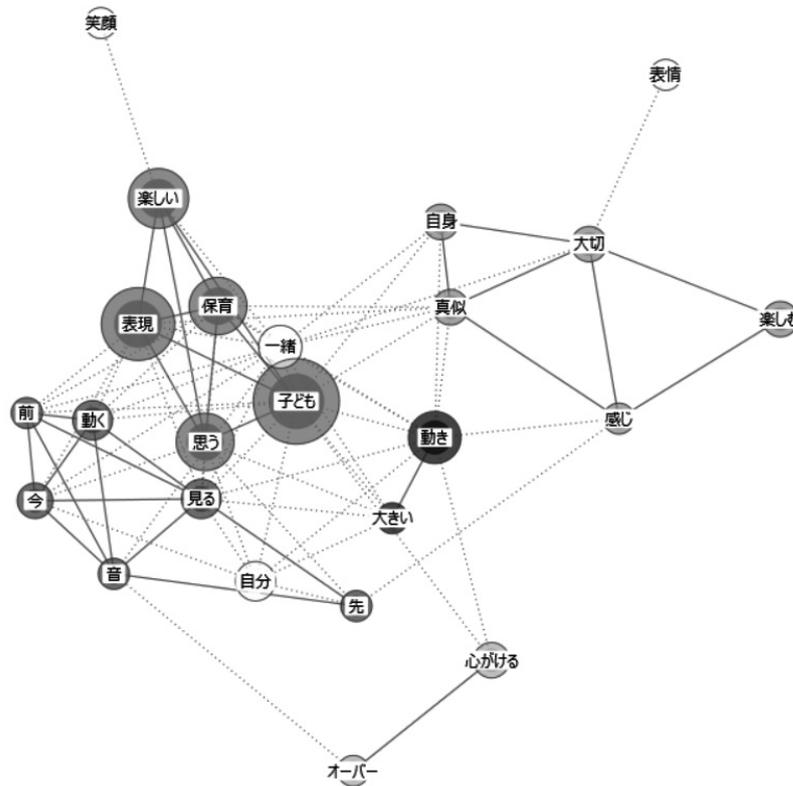


図7 質問7の共起ネットワーク

た。子どもに見られているという意識の上で、子どものお手本となるような動きや保育者が楽しんで表現することを見せることで、子どもも表現を楽しめると思うと述べている。

#### (2) 大きな動き

「動き」と「大きい」で構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、7. (1)と同様に、保育者は子どものお手本となるような動きができるように、大きな動きをすることを心掛けていて、そしてダイナミックな表現の時は大きく動かして、リアクションを大きくするように心がけていることを、述べている。

#### (3) 大切と思うこと

「大切」を中心に、「真似」「楽しむ」などで構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、「保育者自身が楽しそうな表情で、動くことが大切」、「子どもの動きを保育者も真似をして、表現することを一緒に楽しむことが大切」「子どもの表現を保育者が楽しむことによって、子どもの表現を大切にしたい」と保育者が大切に思うことを述べている。

#### (4) 動き方

「動く」を中心に、「見る」「先」などで構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、7. (2)(3)でもあったように、保育者が楽しく子どもと一緒に動くことや、子どもの気持ちを共有しながら一緒に動く、保育者自身が楽しそうな表情で動くことなどが述べられている。そして、子どもより先に保育者が表現するのはどうなんだろうと思うことがあるので、少し子どもの表現を待っているということも述べていた。

#### (5) 心がけること

「オーバー」と「心がける」の2語で構成されている。KWIC コンコーダンスによりこのカテゴリーの内容を探ったところ、7. (1)(2)でも言われていたように、保育者として子どもの前ではオーバーに動くことやオーバーにリアクションをするようにし、笑顔で子どもの気持ちを共有しながら一緒に動くように心がけている、と述べていた。

### IV. まとめと今後の課題

今回の調査では、一人ひとりの保育者のインタビューを行った。オンラインでインタビューを受けることが、初めてという保育者がほとんどだったので、始めは緊張をしている保育者も多かった。また、普段の保育のこと

であっても、質問に対して、即答できないということもあった。緊張からもあるが、改めて保育の中での表現に関して聞かれると、自分の言葉で答えることができない保育者もいることが分かった。質問を何度かくりかえすことによって、普段の保育を思い出し、答えることができるようになる保育者もいた。

普段の保育では、あまり意識をせず、子どもと当たり前のように行っていることも、インタビューの中で、改めてふりかえることにより、保育者自身が意識していることを再確認できたようである。

1・2歳児の子ども表現や身体的表現を引き出した豊かにするためには、普段から、一人ひとりの子どもの表現を見て気づき、認めることや、子どもに対して丁寧に向き合うことが大切という意識を保育者はもつことが必要であり、子どもの表現を否定せず、共感し、子どもの表現を受け入れる姿勢が大切だと意識する必要性が浮かび上がった(質問4)。

また、子どもが表現している様子を見て、保育者のやっている表現を模倣していると感じることがあることから、保育者自身が子どもの前で身体的表現をするときに心がけていることは、保育者自身が表現することを楽しみ、イメージを高め、均一化した動きではなく、さまざまな表現を保育者が行うことも大切であると感じ、常に保育中は、保育者がいきいきと表現しようと心がけているようである。その一つとして、動きは大きく、笑顔で表現しようと思っていると答えていた。

しかし、保育者は子どもより先に表現をしないで、子どものイメージした自発的な表現を大切に、保育者も子どもの自発的な表現を共有し、一緒に子どもの表現を保育者自身の表現の中に取り込むことも必要と意識していることが分かった。(質問7)。

子どものさまざまな表現を、保育者の捉え次第で、子どもの表現は変わってくると思われる。保育者が、子どもの表現を受け止めて、子どもの表現を肯定的に捉えることができることにより、子どもは、安心して表現を行うことができる。インタビューの中で、「子どもの表現を否定しない」という発言があった。子どもの表現を受け入れ、肯定的に捉えるということを多くの保育者が述べていたので、大切なキーワードと考える。子どもの表現を否定しないということは、子どもが自由に表現できる環境になることだと考える。そのような環境の中で、子どもがのびのびと表現を楽しめることは、自発的な表現が増えることであろう。今回A園の保育者のインタビューから「子どもの表現を否定しない」というキーワードが出てきたということは、インタビューを行ったA園では、子どもが自由に表現できる環境が整っている

と捉えられる。

今後の課題として、毎年新しい保育者も増えていくので、乳幼児期に子どもの表現を保育者がどのように捉えているかということを、継続的に調査することが必要である。

また、今回の調査では、A園のみの1・2歳児担当の保育者へのインタビューであったので、年齢に限らず、0～5歳児担当の保育者へ、また1園だけではなく、多くの園の保育者へ、子どものさまざまな表現をどのように捉えているかと、子どもの表現の様子を調査することも必要だと考える。

### 注釈

1) KH コーダーは樋口によって開発され、分析者の主観を排除して、文章データテキストデータ分析用のフリーソフトで、近年ではアンケート調査のような分析に多用されている。テキストマイニング、計量テキスト分析と呼ばれる方法である。

### 文献

- 1) 文部科学省 (2017). 幼稚園教育要領.
- 2) 厚生労働省 (2017). 保育所保育指針.
- 3) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2017). 幼保連携型認

定こども園教育・保育要領.

- 4) 中根佳江 (2016). 保育者の表現力が子どもの表現力にもたらす影響—リトミックの模倣活動を通して— 大阪総合保育大学紀要, 10, 127-138
- 5) 中根佳江 (2016). 同上.
- 6) 中根佳江 (2016). 同上.

### 謝辞

本論文作成に当たり、大変多くの方々にご支援、ご協力賜りました。

お忙しい中、調査にご協力していただいた認定こども園A園の諸先生方には、厚くお礼を申し上げます。

### 付記

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

### 《連絡先》

中根 佳江  
〒546-0013 大阪市東住吉区湯里6丁目4-26  
大阪総合保育大学  
E-mail : y.nakane0125@gmail.com